



理学療法作業療法マニュアル

原 武郎編

本書は、日本におけるリハビリテーションの発祥の地、九州労災病院のスタッフと PT, OT の教育機関である九州リハビリテーション大学校の教官により書かれたものである。ゆえに内容が、臨床の場に密接し実際的である。ここに紹介されている器械器具の大部分が、永年にわたって実際に患者の治療を行ないながら試行錯誤して開発されたものである。

リハビリテーションに関する既刊の書物は医師によって書かれたものが殆んどであるが現場で実際に開発を行った PT, OT 自身によってこの仕事が行なわれた事に大きな意義がある。

各器具について、構造のみならず、使用手順、訓練方法の原理、治療と応用、欠点および注意事項と要領よくまとめている。またそれぞれの器具の寸法を記載しているので、手製で作る場合に便利である。治療と応用で実

際的な使用方法、注意事項では、普段我々がこれらの器具を使用する場合に、ややもすると忘れがちな事柄について述べてある。そして原理に関しては広汎な文献的考察がなされているので有難い。

作業療法では、各作業の実際から、臨床上の考察、段階づけが興味深く鮮やかに述べられている。

付録として、必要な器具の基準一覧表がついているので、新しくリハビリテーションセンターを開設されるところには参考になる。

この様な素晴らしい本をまとめられた、原先生の熱意に敬意を表します。

(医歯薬出版, B 5, 頁 468, 1972, 9,000 円)

(兵庫県リハビリテーションセンター, 理学療法士

山下隆昭)

リハビリテーションクリニック No.5

身体障害・すまい・都市環境

萩島 秀男責任編集

最近あることから ADL 訓練を重点的にやり出してみて痛感するのは、その重要性和同時に参考文献の少さである。専門雑誌にはしばしば体験あるいは研究の結果などがのびるが、臨床でいざという時役に立つような具体的かつ系統だったものは少い。

本書はリハビリテーションプログラムの中で特に“住居”というものを取りあげ、あらゆる観点からの調査、研究の結果を網羅している。確かに我々リハビリテーションにたずさわるものとして最もしばしば直面するのが社会復帰時(家庭復帰をも含めて)の住宅条件及び社会環境の不適合である。そのために復帰できないという例はざらにある。本書では、まず初めに座談会の形式で建築学をも含めた色々な専門分野から社会復帰と住居に関する問題を出し合い討議している。思わずうなずくところが多い。

全体は3部に分かれていて、1部には身障者の実態、福祉行政の現状、建築学上からの身障者の分類が詳しい数値的な実態調査の結果を豊富にとり入れて説明されて

いる。これなど臨床で治療にたずさわる者にとっては誠にありがたい資料である。2部の“すまい”の部はこの本でも最も紙数を多く占めているところで一般的な住宅事情に始まり、基本的な家屋の設計から改造、工夫に至るまで、たくさんの写真、レイアウトを使って実にきめ細く説明している。家屋の改造などはアイデアとして助言することはあっても基本的な建築学的知識がないために具体的に指導することができなかったが、そういう意味でも実にありがたい本が出たと思っている。3部ではより広い立場から身障者及障害者にとっての都市環境というものをとりあげ実例をあげながら現状を見つめ理想を追求している。

全体として筆者及び編集の方々の身障者への深い理解と人間愛があふれている本である。リハスタッフのみならず多くの分野の方々が使える本であり常に身近において必要なつど参考にしたい本である。

(医歯薬出版, B5, 320 頁, 4,500 円)

(中伊豆リハセンター, 理学療法士 田原澄彦)